

# 新潟産業大学報

# 青海波



## 第10号

発行日 平成10年4月5日  
 発行集 新潟産業大学  
 編集 新潟産業大学  
 新潟県柏崎市軽井川4730番地  
 TEL 0257-24-6655  
 FAX 0257-22-1300

### 大学の今後について

学長 荊木久彌



好きな格言  
を一つといわれると、私は

よく「脚下照顧」と答えます。人生を暗夜行路と思う気持ちが強いからでありましょうか、先ず、足もとをしつかり、よく見て歩こう、よく見て進もうと思いがちであります。足もとだけを見て終る生涯であっても、私個人としては、何の悔いもありません。然し、社会的に責任ある立場に置かれた場合、先を見て想いを練ることは極めて大事です。大学冬の時代に、本学の将来にどのような展望が可能なのか、いま見込めるものは読み取りたい、芽が出る種なら蒔いてもおきたいと、お粗末な頭を捻ってはみるものの難しいことばかりです。とりわけ、不透明で不確実な時代であるだけに、誤りなきを期そうとすると、慎重さだけが強く働きます。公の問題であつても、足もとの現実をしつかりと認識することの大切さは同じです。要は、本当に意味のあること、必要なことが出来るようになることだと思います。

昨年、学園創立50周年、本学開学10周年という節目の年でした。

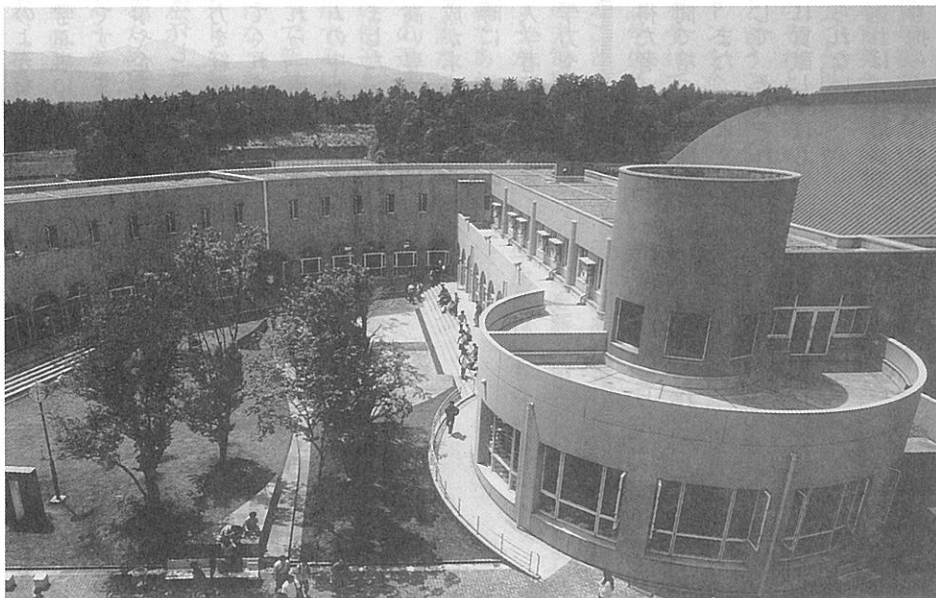
学校法人・大学・校友会の三者が一体となって盛り上げた記念行事を通じて、多くの方々に、学園の歴史と本学の堅実な学風を知っていただく機会を持ちえたことは、大変に有意義なことでありました。更にこれから、地域と大学の関係をどのように深めて行くのか、幅のある発想の一つとして、生涯学習センターの計画を検討したいと考えています。

大学の教学改革は、自己点検・評価を通じてさまざまな形で表われて来ています。カリキュラム改革を筆頭に、シラバスの作成、TAの導入、単位互換、編入学、セメスター制などがその主たるものですが、その大学にとって、真に必要なものとして採用・導入されたのかどうか、疑問も残ります。また、教育機能の重視は当然としながらも、必要以上に、何か柔軟性とか流動性への配慮に傾き過ぎているようにも思われ、些か気掛かりでもあります。本学でも、自

己点検に絡むカリキュラム改革が行われ、経済学部では、今年度から、系統的学習効果を期待した新履修システムが用意されました。一年後に実施される人文学部の新カリキュラムと相まって、本学の教育の質にも深く関わる大きな前進となることでありましょう。

です。「あの先生の授業を」「あのゼミを」、だから「あの大学へ行きたい」「あの大学を卒業したい」という大学になれるよう、新潟産業大学の個性をハッキリさせることが、そのまま本学の魅力とも特色ともなるのではないかと思います。

地方の新設大学は、今後、とりわけ厳しい試練の時代を迎えることでしょう。入試の受験者数の減少が、よくそれを示しているように、この傾向はさらにまだ続くことになるとでしょう。短期大学の全入時代の後を追うようにして襲ってくる大学の全入時代、更に平行して起こる弱小大学の定員割れさえ読み込まれて



## 本学、経済学部で学ぶということ

経済学部長 竹内 明 眸



新潟産業大  
学経済学部が  
創設されて10

年になります。私は設立2年目に  
就任して以来、心理学という、経  
済学部にあつては教養科目に当る  
授業を担当して参りました。その  
間私は、同僚の経済学領域および  
経営学領域の教員の方々と多くの

楽しい会話をする機会に恵まれま  
した。私は心理学を学ぶ者として、  
いわば「経済については全くの門  
外漢」として「なぜ経済学を勉強  
するのか。そこから何が得られる  
のか。」といった質問をこれら同  
僚の教員に投げかけたものでし  
た。このような問いかけをし、返  
答を得る中から私は大学の経済学

部の果たすべき社会的役割や歩む  
べき方向について、多くの洞察を  
得る事ができたと思います。ここ  
では、教育機関としての経済学部  
において学ぶということの意義に  
ついて述べたいと思います。

経済学と経営学は、いずれも実  
践的な学問であり、企業人を育成  
するという観点からは相補い合う  
「車の両輪」です。企業人として  
社会で生きて行こうとする際、自  
分の属する企業の置かれている経  
済的な環境を的確に把握し、判断  
できる能力を備えておくことは、  
極めて有益かつ重要な素養となり

ます。そしてそのような素養や能  
力は、経済学を学ぶ事によっても  
たらされる賜物です。また企業人  
として様々な仕事や企業活動を的  
確かつ着実に遂行していく実務  
的・実践的な能力を経営学領域の  
諸学問は涵養してくれます。新潟  
産業大学は、これら「両輪」の学  
問をカリキュラムの中心にすえた  
教育をして参りました。

今、大学には高い専門性を身に  
つけた人材の養成が求められてい  
ます。それと同時に、これからの  
時代の大学は、入学者に対する基  
礎的・総合的な学力や能力のより

一層の向上を図る役割も強まると  
思います。また、学生時代を通じ  
て社会人としての揺るがない倫理  
観や哲学の土台を確立すること  
も、大学の担う大きな役割となる  
と思います。これらの社会的要請  
を視野に入れながら新潟産業大学  
は、教育機関として時代の要請に  
応えた人材の育成に寄与してい  
くことは間違いありません。

## 人文学部から初めての 卒業生を送り出して

人文学部長 加藤 榮 一



環日本海諸  
国との交流が  
拡大深化する

中で、その交流の担い手を育成し  
輩出するという目的を掲げ4年前  
に誕生した人文学部環日本海文化  
学科から、ついに卒業生を送り出  
すことができたことは、実に大き  
な喜びである。

ユニークなネーミング、定員の  
約3割を占める留学生、国際色豊  
かな教授陣……と注目を集める一

方で、世界でも類を見ない新しい  
試みを巡っては、教職員のみなら  
ず学生諸君にも戸惑いや苦労が存  
在した筈である。特に、先輩を真  
似る、先輩に尋ねるということが  
ごく日常的に可能である一般的大  
学生に比べ、本学人文学部第一期  
生諸君のご苦労は大変なものであ  
ったと思ひ、敬意を表したい。

人文学部の日本人卒業生は、厳  
しい就職環境の中にあつても、経  
済学部と並んで9割を超える就職

内定率を収めてくれた。また、同  
期生の中には、敢えて4年での卒  
業を望まず、休学して留学する道  
を選んだ5人の仲間もいる。日本  
の大学では8年までの在学が許さ  
れているので、今後も、留学に限  
らず、自由な発想で、学生時代を  
更に個性的に創造する者が現れて  
来て欲しいと思う。学生時代こそ、  
様々な体験をし、見聞を広げ、豊  
かな人間関係を築き上げる絶好の  
時間であり、機会だからである。

留学生においては、言葉のハン  
デを乗り越え、努力を重ねた結果  
として、大変立派に成長してくれ  
た。それぞれの母国に戻って仕事  
に着く者、内外の難関大学院の合  
格を手にし更に勉学を継続する

者、日本に職を得た者、などと道  
は異なるが4年間で培った見聞を  
生かして欲しい。また、日本文化  
の良き理解者として、それぞれの  
立場で国際交流に貢献してほしい  
と願わずにはいられない。

4年間を振り返れば、教職員や  
学生達の努力にも拘らず悔いや問  
題点も出てこよう。それは言葉と  
して我々に伝えてほしい。必ず、  
改善や前進への糧としたい。母校  
の発展は、卒業生の手にも委ねら  
れているのである。

さて、新入生や在学生は「環日  
本海文化学科」の先輩を社会人の  
中にも持つことになったわけであ  
る。彼等への積極的なアプローチ  
を求めて行こうではないか。新し

い伝統は先輩と共に、諸君らによ  
って造りだされるのだから。



## 新入生に：ちよつと固めのアドバイス

### 学生生活の中心：カリキュラム

前教務部長 樋口正昭

どう生きるかを自分で計画し、それを行い、結果に対しては自分で責任を負う、という「本当の自由」を経験するのは、今が初めてという人がほとんどだろう。そして、そのことに自負と不安を感じていることと思う。不安を自信に変えるためには、自負を今のこの時期に正しく方向付ける必要がある。

大学生活は、たぶん、入学前に想像して憧れていたほど知的生活が約束されているわけではない。期待したほど楽しくはないし、聞いていたほど容易ではない。もし、自分で決め、行い、責任を持つことに意義を見出す気がなければ。そして、どちらの姿勢を選ぶかは「君の自由」であり、自負の問題なのだ。

柏崎の自然は美しい。海好きには日本海の近さはこたえられないし、冬季スキー場へのアクセスも良い。トレッキング代わりの山歩きで山菜・茸採集もできる。でも、これらは君たちの大学生活の「背景」に留めるべきものだ。レジャー代稼ぎで（割の良い深夜の）バイトに明け暮れるのは本末転倒

で、必ず後でひどく悔やむことになる。失敗の主因がこれである。

楽しい大学生活、結構。遊び代を稼ぐバイト、交友の重視、これも結構。しかし主景たる学生の本分「学問」を忘れてもらうては困る。大学における学問を具体的な分野や科目名で表わしたものがカリキュラム（教育課程）である。いつ、どこで読んでも確認できるが、最も吟味するに相応しい時期は新学期開始の今である。

先ずはカリキュラム表と講義概要を読み、今年度は自分はどうな分野のどういう科目を履修するか、した方がいいか、幾つかの可能性を探り、比較し、先輩・友人と話し合いながら決めてほしい。次に、卒業までの履修体系が学年進行につれてどう展開するか、その流れを大づかみに理解しておくのも重要だ。

経済学部では今年度（人文学部は来年度）から新カリキュラムが導入される。履修の道筋を四通り設定し、いずれを選択しても四年間重点的に学んだ軌跡が残るように工夫してある。

### アルバイトについて

前学生部長 村山実

「アルバイト」と言う語はご存知のようにドイツ語で労働、研究、職、論文、作品等の意味がある。かなり前から大学生仲間でのパートタイムジョブをアルバイトと呼ぶようになったと思われるが、伊三国同盟からドイツ語が外国語教育の中に大きく取り入れられ、その意味を強くした。最近ではアルバイトで連想する対象は学生であり、一般社会人でないのも特徴の一つである。

このところ新潟産業大学のみならず全国の大学でも、学生アルバイトにまつわる事件や犯罪をよく耳にします。耳にするたびに「もう少しアルバイトを控えめにしたら」と学生に注文を出してはいますが、決まって「親に迷惑をかけるから」とか「少しでも家計の足しに」とオーム返しに返答がきます。このような返答にうなずいてばかりもおれないのが現状となっております。

大学生活4年間を人生の貴重な研修期間と考えて、この期間に時間と金を自分自身に投資しなければならぬと考えてみたらいかが

でしょうか。投資額が少なくても額の利潤を生むことは難しい話であります。ご存知のように、日本育英会の奨学金も学部生の給付のものではなく貸与奨学金だけとなりました。日本育英会奨学金も教育ローンの一つと位置づけられ、金融機関等のそれとの違いは利息と返済期間と言うことになりました。教育ローンを企業での融資と考え、融資を受けている4年間の研修期間中（学生時代）にすぐに利潤をあげるなど考えずに、将来のための充電期間としてみたらどうでしょうか。しかもこの融資は自分名義であればもつといいと思います。誰だつて自分名義の借入れは、その返済に責任をもちますし、その使途も融資目的に添うように使用するはずですよ。

せっかく縁あつて新潟産業大学に席を置くことになった以上、もう一度、心のベクトルを大学方向に向けてみませんか。大学生活を幅広いものとするために、社会との接触を隔離しようなどとヤボなことを言う気は毛頭ありません。時間と空間を学友、教員と大学で

共有する機会をもっと増やしませんか。

以上のことは留学生にも願います。日本の留学生の受入態勢や状況が先進諸外国と異なることは百も承知でお願いしております。中には体をこわさなければよいがと心配させるほど勉強をしている学生も数々おられる一方、学費支弁に殆ど時間を割いている留学生も数少なくありません。しかし、ここで、（アルバイトをやらないと大学を続けられない）↓（アルバイトで勉学の時間がない）↓（勉強時間が少ないので奨学金がもらえない）↓（お金がないからアルバイトをする）この悪循環から脱しきれない留学生もせう口ではありません。どこかでの循環を断ち切らないと充実した留学生活は送れないはずですよ。





# シエフィールド大学に滞在して

経済学部 助教授 西成田 道夫

学術の研究のために在外研究員として、1996年9月から1997年8月まで、イギリスのシエフィールド大学に滞在しました。シエフィールドはロンドンの北約250キロ、特急で3時間、イングランドのほぼ中心に位置する、人口50万のイギリス第5の都市です。アメリカほどではありませんが、イギリスも多民族国家であり、町を歩くとアジア系のイギリス人、特にインド系（実際はパキスタン系ですが）イギリス人によく出会います。そしてマクドナルドよりも、インド料理、中華料理の持ち帰りの店が多くあります。私が住んだステイヴンソン・ホールという寮にも留学生がかなりいました。一番多いのはマレーシア人とシンガポール人でしたが、ポーランド、ルーマニアなどからの学生もいました。

大学付属の寮は7つあり、それぞれ200〜400人の学生を収容しています。ステイヴンソン・ホールは、大学の中心から歩いて20分ほどで、他の寮と同じく男女学生が同じ棟に階を分けて住んでいきます。敷地内に緑が多く、しばしばリスを見かけました。食事の時は教師と、学生の世話をするチューターという役目の院生は、食堂の中の30センチほどの壇上のハイ・テーブルで食べます。学生と違って並ぶ必要はありませんが、夕食の時はネクタイを締めて上着を着なければなりません。ほぼ毎月外から人を招いての正餐があり、その時はスーツ着用です。クリスマスパーティーのような寮全体の行事の時は学生を含めて全員が礼装で参加します。食事はそれほどうまくはなかったのですが、寮に住んだおかげで、イギリス人の生活を垣間見ることができました。

大学では英語言語学科に属し、中世英語の専門家バーンリー教授の指導を受けながら、中世英語と英語教育法の授業を聴講しました。どちらのクラスにも年輩の学生がいましたが、誰も年令、学年を聞かないし言わないので、誰が年上で誰が年下かよくわからず1年を過ごしました。一つの科目を取ると1回1時間の授業が週に3回（講義、演習、個別指導）があります。教師は学生の積極的な参加を答への正確さよりも重視し、学生がかなり曖昧なことを言っても誉めて話を引き継ぎます。ですから殆どの学生が積極的に発言していました。教師が教えるというよりも、むしろ少しヒントを与えて学生に自分で進む方向を見つけてせよという感じでした。



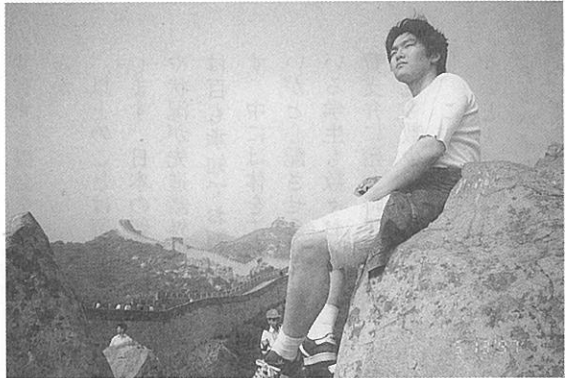
ステイヴンソン・ホール寮にて(筆者は左から4人目)

# 中国短期留学を終了して

平成十年三月 人文学部卒業 大久保 光博

日本で感じることの難しい世界が留学先に存在していた。当時、私は大学三年生であった為に、その短期留学に参加する事は「就職活動」の大切な時期を逃し絶対的不利が生ずるのは明らかだった。しかし、留学を終えて手に入れた物はその不利さえも跳ね返す程の大切な経験であった。

先進的資本主義国である日本と共産主義国である中国との生活対比は、余りにも想像力に頼りすぎ恐らく日本の生活しか知らない自分には実情を知ることが出来ないのではと感じた。例えば、日本では考えられない様な解体寸前とも言える公共バスには、実際に乗った人にしかわからない様なカルチャーショックが存在した。例をあげればきりが無いが、正直言ってこれ程、生活格差があるのかと驚いた。だが、そこに住む人達には学べき点がたくさんある。今の日本では感じる事の少ない情熱を持って生活している人々の多さである。特に大学内で知り合った友人達は、「祖国の発展の為に」



万里の長城にて

「外資系企業に入る」、等、明確な自分の夢を持ち努力していた。今の日本の大学生（もちろん自分も含まれるが）にはない情熱が確かに存在していた。その影響力は私の人生観を押し広げ、様々な体験は私を磨き成長させてくれた様に感じる。

稚拙な内容であることをお詫言するとともに、私に関わった総ての人にこの場を借りてお礼を言いたい。

「ありがとうございました。」

# 卒業式

## 経済学部312名 人文学部145名が 社会へはばたく

平成10年3月19日(木)午前10時から柏崎市市民会館大ホールにて第7回卒業式が盛大に挙行された。今回卒業証書を授与されたのは経済学部312名、人文学部145名であった。式は卒業証書が卒業生代表に授与されたのち、学長

式辞・来賓祝辞と厳肅な雰囲気の中で進行した。式終了後経済学部は各ゼミナール指導教員、人文学部は卒業論文指導教員から個人個人に卒業証書が授与された。人文学部は、今回初めての卒業生であり、国際感覚にあふれた卒業生の活躍が各方面から期待されているところである。会場を移して恒例の謝恩パーティーが卒業生で組織する卒業委員会主催で開催され、卒業生は、恩師や友人と在学中の思い出に花を咲かせ、新たな旅立ちを前に、

# 紅葉祭

## 経済学部四年生 佐藤 真和

我が新潟産業大学の学園祭「紅葉祭」は、今年で第十回目を迎え、記念すべき開催となりました。各部活、サークル等の学生の団体も年に一度の「祭」に向け、数か月前から準備を進めており、心配は天気だけでした。初日は、みぞれ混じりの悪天候となりましたが、二日目、三日目は好天に恵まれ、大勢の人に会場に足を運んで頂き、大盛況のうちに終わった学園祭でありました。

我が新潟産業大学の学園祭「紅葉祭」は、今年で第十回目を迎え、記念すべき開催となりました。各部活、サークル等の学生の団体も年に一度の「祭」に向け、数か月前から準備を進めており、心配は天気だけでした。初日は、みぞれ混じりの悪天候となりましたが、二日目、三日目は好天に恵まれ、大勢の人に会場に足を運んで頂き、大盛況のうちに終わった学園祭でありました。



紅葉祭 模擬店風景

第十回紅葉祭は大成功のうちに終了しました。十回という開催を

大変好評でした。中でも模擬店は、年々学生の間で工夫されたものとなっており、市民の方々にも人気があったようです。また、初日には山崎まさよしコンサート、二日目には中夜祭として、ダンスパーティー、最終日には、恒例のイベントとなったフリーマーケットと目玉となるイベントも用意され、それぞれ大変盛り上がりしました。

## 平成9年度 各賞受賞者

- 学長賞 佐々木 茂 伸君 (経済学部)
- 阿部 まゆみさん (人文学部)
- 文化・スポーツ功労賞 福田 博 嗣君(卓球部)
- 中澤 敏 之君 (水泳部水球チーム)
- 国際交流功労賞 姜 銀 珠さん
- 葉 青 風さん
- 六川 佳奈子さん

決意を新たにしていた。重ね、独自の色あいというものが、定着してきたように思います。来年度は、十一回目。また新たな一歩と、大成功を願っています。

## 公開講座

附属研究所事務室 押見操子

生涯学習というと、主婦・年金でくらしておられる方とか余暇時間のたっぷりある中高年とかが対象だと思われがちです。もちろんこれらの方たちは、人生の意義を学習に求める機会にめぐまれていると言ってもよいでしょう。しかし、そればかりではありません。生涯のおおのの時期に、自らのための、自らを役立てるための学習の道があるのです。

新潟産業大学は平成八年度から公開講座を開催し、生涯学習の分野でも本格的に社会に貢献することになりました。大学のもつ研究と教育の力を、生涯の各時期に必

## 一人暮らしと健康管理

医療室 中村英子

大学内を歩いていると、たくさんのお学生に出会う。何の悩みもなさそうな、時にはあどけない表情をみせている学生達だが医療室を利用することも多い。

大学での生活は、高校までとは多くの点で異なってくる。食事ひとつとってみても一人暮らしとなると、自分で全てしなければならなくなってくる。インスタント食品も最近は品質が上がってきているので適当に利用するのはよいと思うが、それに全面的に依存する

要とするそれぞれの方たちに利用していただくためです。これまでも公開講演会、連携講座などがありましたけれど、よりパワーアップして大学らしい講座を受講生の方たちとともに開催していきたいと考えております。どうぞ自由にと、そして積極的にご参加ください。生涯学習は、自分で選び、自分が学習して評価する新しい自分作り、仲間を広げる活動でもあります。人生の企画をたてる学生時代に生涯学習の視点をとりこむのも一案ではないでしょうか。本学の公開講座は手近な良いチャンスだと思います。

新潟産業大学の学生は、8割が家を離れて生活をしているが、その中でも自炊する学生が大半を占めている。初めての自炊生活、これは大人になるための第一歩といえる。食事のセルフコントロールができないようでは、社会生活の自立も危ないといわれていて、現代社会では自分の健康管理はもちろん体重コントロールも立派な社会人としての指標の一つとみなされている。学生達が自らの健康管理を身につける。この日のくることを今日も医療室で願っている。

# 平成10年度入試の概況

## ：入試部から

例年のとおり、秋の指定校推薦入試を皮切りに、3月実施のC日程入試までの平成10年度入試が終了した。今年は天候にも恵まれ、また長野会場では冬季オリンピック開催地での入試にもかかわらず、無事全日程を終了することができた。しかしながら今年の入試は本学に限らず、多くの大学にとってひとつの転換期にあることを象徴するものであったといえる。

今年の入試は国公立大学ならびに私立大学にとって、差し迫る18歳人口の少子化現象を早くも反映する結果となり、全国範囲において軒並み志願者の対前年割れを起こした。本学においては平均して約2割の減少となり、県内他大学においても2割ないし3割の減少となっている。全国的には5割を割り込む深刻な状況に至った例も少なくなく、今後の大学入試を暗示するような状況である。この背景には単なる少子化現象だけではなく、むしろ低迷長期化する景気を反映し、受験生の受験校数の絞り込みが行われたことが最大の要因と思われる。すなわち、従来では受験生1人あたり4・5校受験していたのが一転して第一志望校

と安全圏志望校に絞つての受験となった様子である。

こうした状況が決して悪いわけではないが、むしろかかる状況においては「入りたい大学」から「入りたい大学」へと受験生側の選別がより厳しく行われるようになってきたわけであり、今後は単に入試施策だけではなく、入学後のカリキュラムを含めた教務上の施策などの一連の見直しと、それらに基づく「魅力ある大学づくり」を早急に展開させていく必要がある。

あらためて今回の本学入試についてみてみると、まず人文学部の健闘をあげることができている。昨年の志願者の伸びの低下を反映しての結果とみられることであるが、一方においては今春初の卒業生を送

り出すことと、経済学部と同様の高い就職内定率、さらには学部としての特性がようやく評価されはじめた結果とみられることでもきょう。

また受験科目の国語に小論文試験を導入することで、多様な能力

を問う試みを図った。さらには受験料の下方修正見直しをおこなうことで、受験生ならびに保護者のかたがたの負担の減少に努めた。これらの努力が活かされる結果の反面、前述の厳しい結果もあることは事実であり、これらは今後の

最大の課題である。すでに入試部では新潟県内における入試会場の増設などの一層の地域密着型の大学をめざし、来年度入試に向け始動している。一層のご指導をお願いしたい。

## 平成10年度入試結果

### 〈経済学部〉

入試区分	定員	志願者	合格者	合格最低点
指定校推薦	55	49	49	—
スポーツ推薦	10	10	8	—
専門高校特別推薦	5	9	8	181/300
公募制推薦	20	90	30	199/300
一般A日程	100	411	201	98/200
センターA日程	20	211	77	—
一般B日程	60	214	118	80/200
一般C日程	20	54	37	102/200
センターC日程	10	18	12	—
社 会 人	若干名	0	0	—
帰 国 子 女	若干名	0	0	—
留 学 生 推 薦	若干名	1	0	—
合 計	300	1,067	540	—

### 〈人文学部〉

入試区分	定員	志願者	合格者	合格最低点
指定校推薦	17	13	13	—
スポーツ推薦	3	2	1	—
公募制推薦	10	75	40	164/300
一般A日程	35	104	80	100/200
センターA日程	10	135	89	—
一般B日程	15	48	33	73/200
一般C日程	10	30	24	63/200
センターC日程	5	26	24	—
社 会 人	若干名	2	0	—
帰 国 子 女	若干名	0	0	—
留 学 生 推 薦	45	41	38	—
合 計	150	476	342	—

(平成10年3月18日現在)



# 一年限りのミニバブル 平成十年度は厳しい年に…就職課から

〈平成九年度の就職状況〉

平成八年秋から、良くなり始めた大卒の雇用環境が更に好転。求人倍率は、昨年度の一・四五倍から一・六八倍に上昇した（リクルート・リサーチ社調査）。リストラ後のフレッシュマン採用に沸いたとはいえ、現実の景気とはややかけ離れて、大学生の雇用・就職の面だけが好調だった。しかし、その熱気も秋には雲散霧消し、一年限りのミニバブルに終わったといえそうだ。

今年度の採用意欲の高まりは、本学の求人状況にも反映し、就職・採用活動がピークを迎える六月時点で求人社数千十一社（前年六百四十一社）、求人数千三百八十一件（前年九百六件）と、前年同期と比べ求人社数で五八%増、求人数で五二%増と大幅に増加した。ほぼ最終的な年間累計となる年明け一月末現在の求人社数は、千二百九十四社（前年千三十三社）、求人数は千七百六十五件（前年千四百十八件）となった。

心配された就職協定廃止の影響も、企業の採用活動の分散化と採用情報の公開拡大となって現われ、学生にとっては追い風となっ

た。ただし、慌ただしく協定廃止が決まったために学生は焦り、約一ヶ月の採用活動の早期化に準備不足のまま就職活動に入らざるを得なかった。また、教員面では前期授業の出席率が著しく低下したことや大学の前期試験日程を無視して採用試験が実施される等、多くの弊害を招いた。各大学とも就職が決まったが卒業できないという学生が、例年以上に出るのではないかと心配している。

さて、本学の就職状況だが、内定率は例年どおり、すでに九〇%を超えている（別表①）。特筆すべき点は、上場企業への内定率が近年最高となったことだ。経済学部の上場企業内定率は、一八・〇%（一月末現在）となり、前年同期の一・六%を大きく上回った。第一期生となる人文学部の学生たちも期待どおりの健闘を見せ、上場企業内定率は一八・五%と好成績を残してくれた。全国との比較でも、本学の就職内定率・就職希望率ともに文部省調査の数値を上回っている（別表②）。

③、経済学部では流通を中心に小売業が増え、前年度増加した金

融業が減少した。人文学部は、小売業と製造業が高かったが、金融業の内定率が経済学部よりも高かったのは意外な結果だった。公務員は依然として狭き門で、二年次から問題集に取り組みようでない」と合格はむずかしい。

総じて平成十年三月卒業生は三年生の春休みから積極的に活動し、学生自身にとっても満足度の高い成績を上げることができた。

〈平成十年度の見通し〉

昨年より銀行、証券をはじめ企業倒産が相次いでいる。大卒雇用環境も九年度よりは確実に厳しくなる。ただ、リクルート社や各新聞社などが企画する就職情報誌、合同説明会への企画企業数は、九年度よりわずかに減る程度だ。採用計画未達だった情報処理・ソフトウェア業界や流通業、サービス業などは現時点では、まだまだ採用意欲が高い。大学生の就職が厳しくなることは間違いないが、氷

河期といわれた平成七年度、八年度のようなことはなさそうだ。しかし、建設業や一部の製造業、金融業は厳しく、斑模様のエルニーニョ型の就職戦線になりそう。

早期化した就職試験のピークは五月中旬から六月初旬だった。平成十年度は、これより更に半月から一ヶ月早まる見込み。また、不況の年の採用活動は短期決戦。是非とも夏休み前に、内定を獲得しておきたいところ。

【別表①】 本学就職内定状況（平成10年2月1日現在）

学部	年度	項目	合計		
			男子	女子	
経済学部	今年度	就職内定率 *1	92.7%	92.8%	92.1%
		上場企業内定率 *2	18.0%	16.3%	29.4%
		就職内定者数	268人	233人	35人
		就職希望者数	289人	251人	38人
	昨年度	就職内定率	93.3%	93.0%	94.9%
		就職希望者数	360人	301人	59人
人文学部	日本人学生	就職内定率	91.6%	94.9%	86.1%
		上場企業内定率	18.5%	11.8%	30.0%
		就職内定者数	87人	56人	31人
		就職希望者数	95人	59人	36人
	留学生	就職内定率	77.0%	75.1%	81.5%
		就職希望者数	11人	6人	5人

\*1：就職内定率＝就職内定者数÷就職希望者数  
\*2：上場企業内定率＝上場企業内定者数÷（全内定者数－公務員内定者数等）  
\*3：就職を希望しない者の中には進学も含む

【別表②】 全国との比較（正式内定日：平成9年10月1日現在）

学部	項目	合計		
		男子	女子	
本学	就職内定率	78.3%	78.2%	78.9%
	就職希望率*	94.4%	92.7%	97.4%
全国4年制大卒（文部省調査）	就職内定率	73.6%	76.4%	67.3%
	就職希望率	77.0%	75.1%	81.5%

\*：就職希望率＝就職希望者数÷卒業見込者数

【別表③】 内定先の業種別分類（平成10年2月1日現在）

業種	平成9年度				平成8年度	
	経済学部		人文学部		経済学部	
	内定者数	%	内定者数	%	内定者数	%
小売業	86人	32.1%	24人	24.5%	90人	26.2%
サービス業	45人	16.8%	15人	15.3%	60人	18.8%
卸売業	43人	16.0%	12人	12.2%	44人	13.2%
製造業	41人	15.3%	23人	23.5%	59人	17.1%
金融・保険・証券業	21人	7.8%	10人	10.2%	43人	12.6%
建設・住宅・不動産	15人	5.6%	6人	6.1%	18人	5.3%
公務員	8人	3.0%	5人	5.1%	16人	4.7%
運輸・通信業	8人	3.0%	3人	3.1%	5人	1.8%
その他	1人	0.4%	0人	0.0%	1人	0.3%
内定者数合計	268人	100.0%	98人	100.0%	336人	100.0%

注：留学生を含む

学校法人柏専学院創立五十周年・新潟産業大学開学十周年記念式典及び祝賀会を終えて

本法人は、昭和二十二年（一九四七）の創立以来、平成九年（一九九七）で五十周年を、また、昭和六十三年（一九八八）に新潟産業大学を開学してから十周年を迎えました。これを記念して、一九九七年十月三十一日（金）に、柏崎市産業文化会館一階文化ホールに於いて記念式典を挙行し、式典後、同館三階大ホールで記念祝賀会を行いました。

記念式典では、荊木久彌理事長・学長が式辞のなかで「教育を国づくりの基本とした創設者・下條恭兵先生の理念の偉大さを思い、地域からよせていただいた支援に感謝しています。大学冬の時代といわれますが、風雪に耐えた

五十年をふりかえり、次代を担う個性の豊かな人材を育成していくことに専念し、思いあらたに発展と充実に努力したい。」と決意を述べました。



このあと田中眞紀子代議士、西川正純柏崎市市長、阿部武雄新潟工科大学長、知事代理の西藤公司氏、桜井新代議士代理の小林正嗣氏から祝辞を戴き、このうち西川市長は「人口九万人の柏崎市に二つの大学があることは、市民にとつての宝です。この五十年間は汗と苦

闘の連続だったと聞くが、柏崎のシンボルのひとつとして発展してもらおうよう、今後もお手伝いをしたい。」と激励されました。

記念祝賀会では、理事長・学長挨拶のあと、三富佳一県議、東山英機県議、西川勉県議、植木馨市商工会議所会頭から祝辞を、乾杯を高橋長究市議会議長、万歳三唱を磯部卯之吉校友会々長から賜りました。開宴中、大型プロジェクトによる「学園のあゆみ」のビデオ上映も多くの出席者から好評を得ました。

おかげをもちまして、関係各位のご協力により全日程を滞りなく終了することができましたことを感謝申し上げますとともに、これを契機に、教職員一同心を一層引き締め、さらなる学園の発展に邁進する所存であります。

父母の会

昨年度、本学は開学十周年を迎えましたが、父母の会は平成六年度に、我が子の学ぶ大学を知り、大学を盛り上げ、学生生活を支援したいとのご父母の声の高まりを受けて発足いたしました。

歴代役員の方々のご努力とご父母のご理解と熱意に支えられ、現在では会員数千六百人余を数える他に例を見ない強力な組織となりました。

その活動も、大学・学生・父母

の三者協調体制を築き上げるべく役員会・総会・文化講演会・支部会等を開催し、毎年試行錯誤を繰り返しながら、内容の充実を図って参りました。

しかし、まだその力を生かし切っていないとは言えません。例えば今まで以上にご父母が主導となる会の運営や、奨学金の有益な運用など抱える課題は山積みです。

ご存知のとおり、少子化の影響で大学は冬の時代を迎えます。更に、大型倒産が相次ぎ、終身雇用年功序列が崩れる今日にあっては大学で何を身につけるか、そして

いかに充実した学生生活を過ごせるかが、その後の人生を左右してくるのではないのでしょうか。そのためにも、是非ご父母のご協力を得、更なる発展につなげ、大学の充実と学生生活の支援に向け、一層の努力をする所存です。



校友会通信

校友会事務局 荊部 光雄

校友会は、柏崎専門学校、柏崎（新潟）短期大学、新潟産業大学の卒業生で組織している同窓の会です。卒業され社会人になっても、同窓の絆を大切にして会員相互の連携を深め合うこと、仲間意識を高めるとともに、母校愛を育てようとするとともに目的があります。

現在、会員数六千余名を数える大世帯になっており、目的に沿った事業の構築と推進を図っているところです。将来に向けて大きく発展が展望されるところです。

昨年十一月二日に（学園創立五十周年記念の年）、校友会の定期総会を地元柏崎市を会場に開催し、県内外より卒業期を問わず多数の会員の参加を得て盛大に行いました。参加された会員の皆様には、久しく会っていない友との再会でなつかしい思い出話に花を咲かせ、同窓、同期の絆のありがたさを痛感されておりました。若い産業大学の卒業生（会員）の校友会に寄せる期待を大きく望んでいるところです。

編集後記

入試課 小林亮一

ようやく春の息吹を感じるようになってきた。木々が芽吹き始め、鳥のさえずる声が増しに力強くなってきた。そして、風は春の香りと変わっていく。冬から春への移ろいは、雪国に住む私達にとつて待ち遠しかった季節であり、その喜びは、私達にだけ与えられた特権でもある。

人文学部から初めての卒業生が巣立っていった。四年前に新入生として迎え入れた時とは随分顔付きが変わった。少年の面影はもはや無く、凛々しく、そして逞しさも感じさせる大人の顔へと変わっていた。人文学部増設にご尽力された方々の感慨は、ひとしおのことであつたと思う。四年間大学で身につけた国際感覚をいかになく發揮して、夢を持ち、世界へと羽ばたいていって欲しいと願う。

これで経済学部、人文学部の両輪がそろった。大学を取り巻く環境には大変厳しいものがあるが、ここから巣立っていった卒業生をはじめ、これから新しく迎える新入生の為にも、更に魅力ある大学づくりを目指すことが、今いる私達に課せられた責任ではないかと思う。

